

厚生文教委員会行政視察報告

視察第3日 静岡県 伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合
2023年7月14日(金)

視察先・視察項目

伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合 クリーンセンターいず 「クリーンセンターの新設について」

新城市でもごみ処理の広域化計画が出ている中で、規模も比較的妥当だということ、この施設が先進事例になると考え、伺った。

<クリーンセンターいず全景>



ここは公設民営方式（DBO 方式）で、昨年 12 月にできたばかりである。
現地では、伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合の方にお話を伺った。



施設名称：クリーンセンターいず
所在地：静岡県伊豆市佐野 456 番地
事業主体：伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合
設計・施工：荏原環境プラント株式会社
契約額：105 億 6,165 万円（内約 30 億円は国庫交付金）
期間：令和元年 9 月 26 日から令和 4 年 12 月 31 日（3 年 3 か月）
管理運営：株式会社いず E サービス
運営業務：20 年間（施設自体は 30 年は使用できるようになっている）

1. 施設概要



この施設は、静岡県伊豆市の中央よりやや北側にある佐野区に位置し、伊豆市と伊豆の国市の 2 市の燃やせるごみのみを安全に処理する施設である。

敷地内には、工場棟、管理棟、計量棟などがあり、一般の方々に見学コースを設けて、楽しくごみ処理の仕組みを学んだり、屋外には芝生公園も備えており、住民の憩いの場として開かれた施設になっている。

また、ごみを燃やして発生する熱を利用して、焼却熱のエネルギーを最大限に回収して発電を行い、その電気を施設の電力として活用するほか、余剰電力は売電している。（売

電収入は年間 4000 万円を見込んでいる）余熱の利用方法については、温水プール等の場外熱利用も地元からは要望があったが、将来的な管理費用等の問題も考慮して、発電を採用した。またここは一時的な避難所になっていて、施設自体の廊下なども広く設計され、電源確保も含め災害時対応している。



現在、伊豆市の人口が約2万9千人、伊豆の国市が約4万7千人で、合計約7万6千人分のごみを、24時間体制で燃焼管理をし、処理しています。特に臭気対策には気を使っていて、ごみ搬入時のごみピット内の空気を炉内に取り込み、燃焼用空気として利用することで、外部に拡散しない構造としていたり、プラント排水に関しても施設で循環再利用し、外部に放流しないクロズドシステムを採用している。

敷地面積	17,137.49㎡
延床面積	5,697.69㎡ (工場棟)
階数	地上4階、地下1階
処理能力	82t/日 (41t/日×2炉)
処理方式	ストーカ式焼却炉 (発電設備付き)
発電設備	蒸気タービン発電機 (最大出力1,200kw)
竣工	令和4年12月
稼働開始	令和5年1月4日

新城市クリーンセンター

敷地面積	約18,354㎡
延床面積	約3,511㎡
処理能力	60t/日 (30t/日×2炉)
処理方式	ストーカ式焼却炉
場内の熱利用として冷暖房等に使用	
稼働開始	平成12年2月

2. 事業経過

平成10年3月に「静岡県ごみ処理広域化計画」に基づく駿豆圏域南ブロックとして広域化を検討し、平成14年4月に伊東市、熱海市他、2市7町1村で協議会を設立したが、熱海市、戸田村の脱会や、建設負担金割合、建設候補地、ごみ分別方法の違いなどの理由で、平成16年8月に解散となってしまった。

その後、伊豆市と伊豆の国市での枠組みで平成17年9月に組合の設立準備会を設置した。

2市の共同処理に至った理由として、現在ある施設の老朽化や、ごみの分別形

態が似ていること、施設整備・運営にかかわる財政的負担の軽減、スケールメリットによるごみ焼却時の熱エネルギーが利用可能であるなどがあげられる。

そして建設候補地の選定に入り、平成18年7月から平成20年5月に伊豆市堀切地区、平成20年8月から平成25年4月には、伊豆の国市南江間地区などがあがったが、いずれも合意に至らず、平成25年3月から10月にかけて「広域一般廃棄物処理施設のあり方市民検討会」を開催し、望ましい施設のあり方について検討した。

平成25年10月から平成26年3月に、伊豆市と伊豆の国市の2市のすべての区に建設候補地の公募を行った。

ここで4地区が手をあげてくれて、平成26年12月に伊豆市佐野区に決定した。

平成27年4月に伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合が設立され、ここまで約9年近くかけて候補地が決まった。

そして、平成30年10月に予算が可決され、令和元年9月に建設工事請負契約の締結がなされ、令和4年12月に「クリーンセンターいず」は完成した。

3. まとめ

本年3月、東三河地域広域化ブロック会議の「東三河ごみ焼却施設広域化計画」によると、愛知県でも令和3年11月に「愛知県ごみ処理広域化・集約化計画」が策定されており、本市では新城市クリーンセンターの移設にむけて、令和14年開始を目標に計画を進めている。

クリーンセンターいずでは、土地の選定でも、9年近くかかっている。

なかなか受け入れてくれる場所がなかったのは、クリーンセンターの安全性や役割などの理解を、市民に対して深めていなかったからではないかと考える。

もちろん、そういった理解を深める取り組みも行われたが、市民の同意を得るところまでは至らなかった。

現在の新城クリーンセンターのダイオキシンの排出量は、自然界から出る量よりもはるかに低く、排水も循環型で、ごみピット内も減圧され臭いが漏れないようになっている。

これはクリーンセンターいずも同じシステムで、とても安全でクリーンな施設だった。実際に見学や関係者のお話をお伺いすると、いわゆる迷惑施設といわれるような意識も変わると思われるので、市民や近隣住民に対する説明会の重要性をあらためて認識した。

クリーンセンターいずでは、一時避難場所になっていたり、ごみを燃やした熱の再利用も市民からの意見を聞いたりしながら、最終的には発電になったが、私は市民の意見も取り入れながら進めるやり方には賛同する。

今回の視察で訪れた「クリーンセンターいず」は、本市にこれから起こるであろう、広域化の進め方や、広域処理体制構築にあたっての課題も含めて大変参考になる様々な取り組みが見てとれた。

(担当：今泉吉孝)